

「大乘」を読もう！ 購読運動を展開 「大乘のつどい」で 講演会開く

「声をかけ合い、みんなで『大乘』を読みましょう！」
高岡教区氷見東組門徒推進員連絡協議会
(石田貢会長)は、組を挙げて本誌「大乘」の購読促進運動に取り組んでいます。この実践運動の一環として「第11回大乘のつどい」が富山県氷見市の妙願寺で開かれ、門信徒や僧侶80人が法話を聴聞。「大乘」購読の呼びかけも行われました。

氷見東組門徒推進員連絡協議会



氷見東組では、門徒推進員の実践活動として「まず自らが購読しよう」と、平成15年から団体購読運動が始まりました。当初から「心に響くあたたかいご法話をお届けするのが私たち門徒推進員の仕事」と、毎月各家庭に手配りしています。そんな願いのこもった活動により購読数も徐々に増加しました。さらに3年後には、購読促進運動の一環として、第1回「大乘のつどい」として講演会を開きました。このつどいは門徒推進員が中心となり、組内寺院の持ち回りで開催。企画運営や司会進行、ポスターやチラシの配布に至るまですべて会員が担当。各自がお寺や地域の掲示板にポスターを貼り、「大乘」のピーアールとともに購読を呼びかけています。

妙願寺で開かれた「第11回大乘のつどい」では、昨年度から「『拝読浄土真宗のみ教え』に聞く」を本誌に連載中の布教使・漢見覚恵さんが「自信教人信」と題して法話。師やご門徒との出会い、父親の往生などを通して自信教人信の姿を教えられたことなど、連載に書き切れなかったエピソードを加えながら話しました。

同協議会では「このつどいを通して、『大乘』を購読していない方が、読んでみたいという気持ちにつながれば大変ありがたい。各ご家庭にお配りするときに、『先月はいいいことが書いてあったね』『今月も楽しみ！』といった反応があると、しっかりと読んでいただいているんだなど実感します。今後も組の実践活動の重点目標として、さらに運動の輪をひろげていきたい」と話しています。



「大乘」で連載中の漢見覚恵さんが「自信教人信」と題して法話。「大乘」の購読も呼びかけた